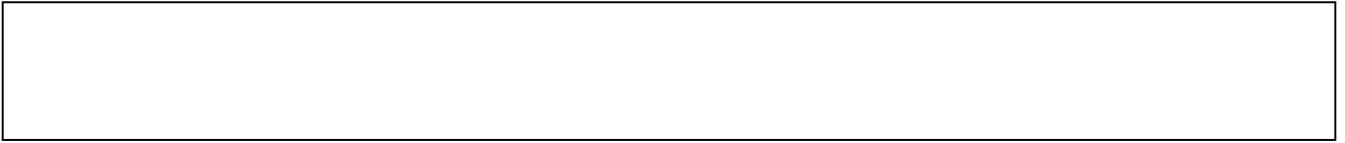


# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |   |                                 |                         |
|--|---|---------------------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>カリキュラム論   | 授業の種類<br><br>( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>板垣 寛<br><br>柳田 真理子 | 当該科目における実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br><br>12回   | 時間数 (単位数)<br><br>24時間 (2単位)   | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期              | 必修・選択<br><br>必修         |
| [科目概要・到達目標]<br>・乳幼児期における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・じっせん・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解すると共に、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについてほりさげ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。   |   |                                 |                         |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・幼児教育における計画の重要性を理解する。「カリキュラム」「教育課程」の意味することを理解する)<br>2・幼児期の学習の特質を理解する(遊び、生活を通しての学びと系統的な学習の違いと関連を理解する)<br>3・経験カリキュラムと系統的カリキュラム(カリキュラムにおける系統性と子どもの経験との関連を理解する)<br>4・幼稚園における教育課程の意義と編成の基本理解(教育課程に関する法律と教育課程編成の仕方を理解する)<br>5・教育課程の編成の実際(教育課程の編成の手順、形式、記入内容について事例を通して理解する)<br>6・教育課程と指導計画の関係(指導計画の必要瀬尾・教育課程から指導計画をどのように作成するかを理解する)<br>7・幼稚園における長期指導計画(幼稚園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成)<br>8・幼稚園における短期指導計画(幼稚園における週案、週日案、日案と内容を理解し、事例を参考に作成)<br>9・指導計画と保育実践(これまで学んだ指導計画作成上の配慮点から、計画を実践に移す際の配慮点をまとめる)<br>10・保育の記録と反省・評価(保育における記録の重要性と記録に仕方、計画-実践-反省-計画の関係性を事例を通して学ぶ)<br>11・保育の評価と計画の改善、カリキュラムマネジメントの意義と実際(長期・短期計画について、計画がどのように実践されたか、そこから次の計画をどう修正するか、事例を通して学ぶ。カリキュラム・マネジメントの意義と幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園のカリキュラム・マネジメントの実際を学ぶ。<br>12・小学校との連携(指導要録等、幼児施設と小学校の連携に関する作成のあり方や方法を事例を通して学ぶ) |   |                                 |                         |
| [使用テキスト]<br>・「乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論」(北大路出版)<br>[参考文献]<br>・「教育課程・保育課程論」(東京書籍)<br>・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)<br>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)<br>・保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省・日本保育協会)   |   |                                 |                         |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・考查点(75%)<br>・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。<br>・平常点(25%)   |   |                                 |                         |



# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                           |                        |             |             |  |
|--|---------------------------|------------------------|-------------|-------------|--|
| 授業のタイトル (科目名)  |                           | 授業の種類                  |             | 授業担当者       |  |
| こどもと音楽   |                           | ( 講義・ <b>演習</b> ・ 実習 ) |             | 風間 章子・廣野 仁美 |  |
| 授業の回数<br>12 回  | 時間数 (単位数)<br>24 時間 (2 単位) | 幼稚園教諭専攻科<br>前期         | 必修・選択<br>必修 |             |  |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <p>・領域(表現)の中の「音楽」の指導に関する乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。</p> <p>①乳幼児の音や音楽による表現の姿やその発達を理解する ②音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする</p>   |                           |                        |             |             |  |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <p>1・乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて理解する<br/>                 2・音楽を生成する過程についてを理解する<br/>                 3・乳幼児の素朴な音遊びを通しての表現を見出し、受け止め、共感する大切さを理解する<br/>                 4・様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることを理解する<br/>                 5・身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる<br/>                 6・表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析する。<br/>                 7・協同して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことの大切さを学ぶ<br/>                 8・様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることを理解する。</p> |                           |                        |             |             |  |
| <p>[使用テキスト]</p> <p>・子どもの姿からはじめる領域・表現 (みらい)<br/>                 ・幼稚園教育要領 (文部科学省)</p> <p>[参考文献]</p> <p>・保育所保育指針 (厚生労働省)<br/>                 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>  |                           |                        |             |             |  |
| <p>[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に以下の配点による総合点を算出し共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>・ 考查点 (75%)<br/>                 ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。<br/>                 ・ 平常点 (25%)<br/>                 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</p>  |                           |                        |             |             |  |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |                                  |                     |                  |
|---|----------------------------------|---------------------|------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>こどもと絵本   | 授業の種類<br>( 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>柳田 真理子 | 当該科目に関する実務<br>経験 |
| 授業の回数<br><br>15 回   | 時間数 (単位数)<br><br>30 時間 (1 単位)    | 幼稚園教諭専攻科<br><br>後期  | 必修・選択<br><br>選択  |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br>・絵本の歩みについて概観する<br>・絵本の文や絵、描写方法、構成など技法を理解する。<br>・子どもの発達を理解し、年齢に合った絵本を判断できる。<br>・絵本の種類を知り、実施する場に合った選書ができるようにする。<br>上記の学びを通して、子どもの絵本経験を豊かにするための、理論と技術を体系的に習得し、実践力を養う。   |                                  |                     |                  |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・オリエンテーション～絵本とは何か?～絵本の基本概念を概観し、心に残る絵本について想起する。<br>2・絵本の基本概念と歴史①世界の絵本に理解を深める <span style="float: right;">【手作り絵本製作】</span><br>3・絵本の基本概念と歴史②日本の絵本に理解を深める<br>4・文の機能と絵の機能～絵本の絵と文章の関係を考える～<br>5・絵本の画面展開と描写の手法～絵本のページをめくる表現方法～<br>6・絵本の構成要素～絵本の「色」「形」「線」から表現方法を考える<br>7・子どもの発達と絵本①赤ちゃんと絵本 (赤ちゃん絵本の種類・内容・与え方)<br>8・子どもの発達と絵本②幼児と絵本 (絵本の種類・内容・与え方)<br>9・子どもの発達と絵本③ 、、 、、 、、<br>10・絵本の種類①「文字なし絵本」「写真絵本」<br>11・絵本の種類②「科学絵本」「行事絵本」<br>12・絵本の種類③「障がいのある子どもに寄り添う絵本」<br>13・絵本の種類④「日本の昔話」「世界の昔話」<br>14・絵本の種類⑤「しかけ絵本」<br>15・まとめ |                                  |                     |                  |
| [使用テキスト]<br>・各回テーマにそった資料を配布する   |                                  |                     |                  |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考査点 (75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。<br>・ 平常点 (25%)<br>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。   |                                  |                     |                  |

|   |           |                  |       |        |              |
|---|-----------|------------------|-------|--------|--------------|
| 授業のタイトル（科目名）  |           | 授業の種類            |       | 授業担当者  | 当該科目に関する実務経験 |
| こどもと健康  |           | （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ） |       | 柳田 真理子 | 保育士          |
| 授業の回数   | 時間数（単位数）  | 幼稚園教諭専攻科         | 必修・選択 |        |              |
| 12回   | 24時間（2単位） | 前期               | 必修    |        |              |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <p>・本科目では、領域「健康」の指導に関する、乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項に関する知識を身に付ける。理解する事項については以下①～⑥とする。</p> <p>①乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味</p> <p>②乳幼児期の体の諸機能や発達と生活習慣の形成</p> <p>③安全な生活と怪我や病気の予防</p> <p>④乳幼児期の運動発達特徴と意義</p> <p>・到達目標</p> <p>①乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。</p> <p>②健康の定義と乳幼児期の健康の定義が説明できる。</p> <p>③乳幼児期の体の発達の特徴が説明できる。</p> <p>④乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義が説明できる</p> <p>⑤乳幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。</p> <p>⑥乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解できる。</p> <p>⑦危険に関してのリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。</p> <p>⑧乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。</p> <p>⑨乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。</p> <p>⑩日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮等の身体活動の在り方を説明できる。</p> |           |                  |       |        |              |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下3法と表記）の科目内容の理解し、3法共通の領域「健康」のねらいと内容を理解する</p> <p>2・乳幼児の具体的な生活習慣（睡眠・食事・排泄・着脱衣・生活など）を調べ、理解する</p> <p>3・乳幼児の発育発達について調べ、今日的には、どのような課題があるのかまとめる。</p> <p>4・年齢階級別死因（0歳・1～4歳・5～9歳）を調べ整理し、事故の実態と原因及び、保育現場における安全管理・安全教育について考察する</p> <p>5・感染症の予防について、感染経路とその対策について調べ理解する</p> <p>6・乳幼児期の成長にとって大切であると思う自然体験について学ぶ</p> <p>7・3歳未満児の運動遊びについて調べ整理する。</p> <p>8・3歳以上児の運動遊びについて調べ整理する。</p> <p>9・乳幼児の健康課題（乳幼児対象）をグループワークを通して考察・検討。</p> <p>10・乳幼児の健康課題（保護者・地域社会対象）をグループワークを通して考察、検討。</p> <p>11・これまでの学びをまとめ、ノートに「乳幼児の健康」レポートを作成</p> <p>12・提示される期末課題①～⑥について、レポートを作成</p>      |           |                  |       |        |              |

[授業テキスト]

- ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
- ・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省・日本保育協会）

[参考文献]

- ・健やかな子どもの心と体を育む運動遊び（建帛社）

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点 (75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点 (25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |  |                    |                  |
|--|--|--------------------|------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>図画工作 I  | 授業の種類<br><br>( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>溝口 敏美 | 当該科目に関する<br>実務経験 |
| 授業の回数<br><br>12 回  | 時間数 (単位数)<br><br>24 時間 (2 単位)  | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期 | 必修・選択<br><br>必修  |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期の造形活動の基礎知識を身につけ、様々な表現技法を知り、実践しながら感性を養う。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画、工作などの製作、造形表現についての講義</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 材料、用具の特性と造形の基礎知識を理解し授業を通して創意工夫できたか。</li> <li>・ 授業を通して造形活動の流れ、技法を理解し作品に生かすことができたか。</li> </ul>   |  |                    |                  |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・平面 (画用紙・鉛筆、消しゴム・カッターナイフ・マスキングテープを用いて)<br/>    ※ 白と黒の世界を鉛筆を使用しての線描画の作成 (黒鉛筆、白消しゴム)</li> <li>2、    同上</li> <li>3、平面 (画用紙・鉛筆・絵具を用いて)<br/>    ※ 絵具を使用しての静物画の作成</li> <li>4、    同上</li> <li>        同上</li> <li>5、平面 (画用紙・絵具を用いて)<br/>    ※ 抽象画</li> <li>6、平面 (画用紙・絵具・鉛筆を用いて)<br/>    ※ 大きな絵をグループで作成する。キャラクターと場面構成を決める</li> <li>7～11    同上</li> <li>12 切り絵 (色画用紙・糊・はさみを用いて)<br/>    ※ 季節が分かる行事の表現</li> <li>13    同上</li> <li>14 平面 (押す・こする・焼く・切り裂く)<br/>    ※ 様々な技法を使用して表現する。</li> <li>15 上記の経験を生かし、みんなで意見交換しながらの作品鑑賞会</li> </ol> |  |                    |                  |
| <p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「小学校図画工作の基礎」 (萌文書林)</li> </ul>  |  |                    |                  |
| <p>評価の判断及び基準</p> <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点 (25%)</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>  |  |                    |                  |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |                               |                    |                                |
|---|-------------------------------|--------------------|--------------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>一般教養講座 (公務員対策)   | 授業の種類<br>( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )     | 授業担当者<br><br>伊藤 晶  | 当該科目に関する実務<br>経験<br><br>高等学校教員 |
| 授業の回数<br><br>15 回   | 時間数 (単位数)<br><br>30 時間 (1 単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>後期 | 必修・選択<br><br>選択                |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br>・公務員試験における文章理解は、中高校までの現代文・古文・英文も含む内容で、教養試験においては最も出題数の多い重点科目である。文章の趣旨を理解するだけでなく、論理性も要求される。文章の読解力を高めるとともに、論作文試験に必要な書き方を学ぶ。<br>・過去の一般教養試験問題を振り返り、自らの弱点となる分野を補強できるよう、課題に取り組んでいく。   |                               |                    |                                |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・オリエンテーション (受験科目と出題傾向を理解する)<br>2・長文読解①<br>3・長文読解②<br>4・古文<br>5・漢文<br>6・小論文演習①原稿用紙の使い方と書く際のルール<br>7・小論文演習②漢字とかなの使い分け方<br>8・小論文演習③伝えたいことを明確にする<br>9・小論文演習④表現を豊かにする<br>10・論作文：出題テーマの傾向と対策<br>11・時事問題を考察する<br>12・時事問題を語る<br>13・時事問題をテーマに書く<br>14・模擬試験①<br>15・模擬試験② |                               |                    |                                |
| [使用テキスト]<br>必要に応じて、資料配布   |                               |                    |                                |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考查点 (75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。<br>・ 平常点 (25%)<br>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。   |                               |                    |                                |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                               |                    |                            |
|--|-------------------------------|--------------------|----------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>教育原理  | 授業の種類<br><br>( 講義 ・ 演習 ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>伊藤 晶  | 当該科目における実務経験<br><br>高等学校教員 |
| 授業の回数<br><br>8 回   | 時間数 (単位数)<br><br>16 時間 (2 単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期 | 必修・選択<br><br>必修            |
| [科目概要・到達目標]<br>・教育の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、教育の意義と目的、教育の歴史及び思想、わが国の学校教育制度、発達段階に応じた指導原理、家庭教育及び地域教育の意義等について学ぶことを目的とする。<br>また、本学習を通して、教育及び児童福祉の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で「よりよい教育とは何か」を考える力を安なうことが重要である。   |                               |                    |                            |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・教育の基本原則(1) 人間形成と教育の本質・教育の可能性と限界・授業の本質<br>2・教育の基本原則(2) 人間教育の可能性・教育形式の非連続的なこと・実存的人間理解と現代教育の使命<br>3・西洋の教育の制度と思想の歴史(1) 古代、中世の教育・近代教育の萌芽期・17世紀も教育思想・18世紀の教育思想<br>4・西洋の教育の制度と思想の歴史(2) 産業革命と教育・19世紀の教育思想・新教育運動<br>5・日本の教育の制度と思想の歴史(1) 近世の教育・近代教育制度の確立期・公教育制度の整備と教育勅語<br>6・日本の教育の制度と思想の歴史(2) 大正期の教育運動・戦時下の教育・教育の民主化<br>7・発達と教育(1) 発達の意味・子どもの発達を支える教育的信頼について・シュタイナーにおける子どもの発達段階の理論<br>8. 発達と教育(2) 子どもの発達段階に即して親や教師が心掛けるべきこと・幼児教育・保育の目指すもの<br>9・家庭・地域教育(1) 家庭教育の意義と特色・地域教育の意義と特色<br>10・家庭・地域教育(2) 家庭、地域社会の課題・これからの家族、地域教育<br>11・現行の保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の特徴<br>12・現代教育の課題と教育制度上の変化と特徴 |                               |                    |                            |
| [使用テキスト]<br>・「新しい教育原理」(ミネルヴァ書房)<br>[参考文献]<br>・「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)<br>・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)   |                               |                    |                            |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・査点(75%)<br>・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。<br>・平常点(25%)<br>・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。   |                               |                    |                            |

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |   |                |  |
|---|---|----------------|--|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>教育心理学  | 授業の種類<br><br>( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 ) | 授業<br>担当者      | 当該科目に関する実<br>務経験                               |
|   |   | 板垣 寛           | 臨床心理士<br><br>児童相談所相談員<br><br>児童発達支援センター相<br>談員 |
| 授業の回数<br>8 回  | 時間数 (単位数)<br>16 時間 (2 単位)   | 幼稚園教諭専攻科<br>前期 | 必修・選択<br>必修                                    |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br>・教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的な視点から探求する学問である。そのため発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の 4 つの領域についての基礎知識が必要となってくる。本科目では、基礎的知識習得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題の応用を考えていく。  |   |                |  |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・教育心理学とは (教育心理学の内容や意義、用いられる研究法などを理解する)<br>2・教育心理学のあゆみ (教育心理学の歴史を概観し、代表的な研究者の研究内容)<br>3・子どもの発達 (遺伝と環境、レディネスの概念を理解する)<br>4・知能 (知能の概念の有効性、代表的な知能の理論、発達、規定因などの理解)<br>5・性格 (パーソナリティ) (性格の概念と個人差を学ぶ。代表的な性格の理論や性格の形成、性格の診断法等)<br>6・学習のメカニズム (パブロフの古典的条件付け・スキナーのオペラント条件づけ・洞察による学習等、学習のメカニズムを理解する)<br>7・学ぶ意欲と授業の課程 (動機づけの概念や原因帰属などの理論、様々な授業方法を学ぶ)<br>8・学習の評価 (学習の評価の目的、基準などの理解。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点)<br>9・社会性 (社会性 (向社会性と道徳性) の理解。「愛着関係」「親子関係」「仲間関係」が社会性の発達に及ぼす影響を理解)<br>10・集団としての子ども (社会心理学的観点から、教育活動を理解する。<br>11・子どもの不適応行動 (いじめ問題・不登校や非行などの理解)<br>12・現代社会を生きる子どもの発達環境と影響の考察 |   |                |  |
| [使用テキスト]<br>・「たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に」(図書文化社)<br>[参考文献]<br>・「教育心理学をきわめる 10 のチカラ」(福村出版)  |   |                |  |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考查点(75%)  |   |                |  |

- ・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
- ・平常点(25%)
- ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                         |                               |               |  |
|--|-------------------------|-------------------------------|---------------|--|
| 授業のタイトル (科目名)<br>教育相談 (カウンセリング含む)  |                         | 授業の種類<br>( <b>講義</b> ・演習・実習 ) | 授業担当者<br>板垣 寛 | 当該科目に関する実務経験<br>臨床心理士<br>児童相談所相談員<br>児童発達支援センター相談員 |
| 授業の回数<br>12回   | 時間数 (単位数)<br>24時間 (2単位) | 幼稚園教諭専攻科<br>前期                |               | 必修・選択<br>必修  |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談は、現在の学校教育の全ての活動の中で、幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質であるといえる。そこで、学校教育における教育相談とはとにかくその意義を課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的理論や概念を学ぶと共に、教育相談を進める際に必要となる基礎的知識を身に付ける。</li> <li>また、教育相談の具体的な進め方や、組織的な取り組みや連携の必要性について理解する。</li> </ul>  |                         |                               |               |  |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の意義とは何か～教育相談の歴史、教育相談の意義と役割～</li> <li>2. 来談者中心カウンセリングとカウンセリングマインド～来談者中心カウンセリングの意義と教師に必要とされるカウンセリングマインドへの理解。受容・傾聴・共感的理解を学ぶ～</li> <li>3. 開発的カウンセリング～問題予防や児童生徒がよりよく生きるためのカウンセリングマインドについての理解～</li> <li>4. 様々な心理療法①～教育相談に役立つ精神分析を基本とする心理療法、</li> <li>5. 様々な心理療法②～教育相談に役立つ行動療法・認知行動療法</li> <li>6. 様々な心理療法③教育相談に役立つ家族療法および短期療法</li> <li>7. パーソナリティ理論の類型論と特性論</li> <li>8. 発達～発達とは何か、発達段階についてに諸理論を学ぶ</li> <li>9. 発達障がいの特徴について理解をし、その特性にあった働きかけを学ぶ</li> <li>10. 心の問題の種類を知り、その概略を理解する。(統合失調症・気分障害・摂食障害・不安障害・チック・自傷行為・心身症・緘黙症など)</li> <li>11. 教育アセスメントとは何か。～子どものアセスメントの重要性を理解し、様々な心理テストの概略を学ぶ～</li> <li>12. 不登校・不登園や非行、いじめ、虐待などの原因論の理解とメカニズムを学ぶ。それぞれへの予防・開発的教育相談としての対策と治療・矯正的教育相談としての対策の理解 (相談計画や目標の検討などを行い、ロールプレイングで学習する)</li> </ol> |                         |                               |               |  |
| <p>[使用テキスト]</p> <p>「カウンセリング学習のためのグループワーク」</p>  |                         |                               |               |  |
| <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点(25%)</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>  |                         |                               |               |  |

(

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |                               |                    |                            |
|---|-------------------------------|--------------------|----------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>教育法規   | 授業の種類<br><br>( 講義 ・ 演習 ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>伊藤 晶  | 当該科目における実務経験<br><br>高等学校教員 |
| 授業の回数<br><br>8 回  | 時間数 (単位数)<br><br>16 時間 (2 単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期 | 必修・選択<br><br>必修            |
| [科目概要・到達目標]<br>・幼稚園・小学校・中学校教諭等の教員を目指す人たちが、教育法規に関する基礎的な知識を身につける。それらの知識を用いて、学校における法的な諸問題に対応できるようになることを目標とする。<br>1) 教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる<br>2) 教育法規の基礎知識を理解し、重要な用語については、説明ができる<br>3) 学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにし、説明ができる   |                               |                    |                            |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・教育法規のしくみと学び方①国の法令 (教育法規・文部科学省設置・日本国憲法・教育基本法・教員職員免許法)<br>2・教育法規のしくみと学び方②教育行政 (地方教育委員会の組織と役割・学校と教育基本法)<br>3・教育法規のしくみと学び方③学校教育 (学校教育法・スクールコンプライアンス・私立学校・義務教育学校制度・中等教育学校制度・学校運営協議会制度)<br>4・学校組織と教育課程①学校組織と教育課程 (校務文章・校長と教諭の職務・司書教諭の義務・職員会議の性格と機能)<br>5・学校組織と教育課程②教育課程 (教育課程の編成・教育課程の基準としての学習指導要領・道徳教育の教科化「特別の教科 道徳」)<br>6・学校組織と教育課程③児童・生徒と生徒活動 (校則・いじめ防止と救済・いじめ防止対策推進法・懲戒と体罰問題・児童・生徒の出席停止・不登校とスクールカウンセラー・進級判定)<br>7・学校運営と研修①教職員の職務と研修 (地方公務員としての教員の服務・教員の分限処分・教員の懲戒処分・教育公務員特例法・教員評価)<br>8・学校運営と研修②教職員の職務と研修 (教員の職務と週休日・勤務時間と時間外勤務の特例・学校の組合活動・個人情報保護法・教職員の人事権・公務上に災害と教員の労働災害補償・教員免許の更新制)<br>9・人権教育における法規① (人権をめぐる動き・世界人権宣言・国際人権規約・人種差別撤廃条約・女子差別撤廃条約)<br>10・人権教育における法規② (子どもの権利に関する条約・人権教育啓発推進法基本計画とその基本計画)<br>11・障がい児教育・特別支援教育と法規                      12・学校保健・安全と法規 |                               |                    |                            |
| [使用テキスト]<br>・「教師のための教育法規・教育行政入門」 (ミネルヴァ書房)<br>[参考文献]<br>・「やさしい教育法規の読み方」 (教育開発研究所)   |                               |                    |                            |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考查点 (75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。<br>・ 平常点 (25%)<br>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。   |                               |                    |                            |

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |  |                     |                         |
|---|--|---------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>児童文化財  | 授業の種類<br><br>( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>青田 由美子 | 当該科目に関する実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br>15 回   | 時間数 (単位数)<br>30 時間 (1 単位)  | 幼稚園教諭専攻科<br>後期      | 必修・選択<br>必修             |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br>・乳幼児にとって、児童文化財が果たす役割を理解し、児童文化財を積極的に活用できるための知識と技術を身に付ける。また、製作を通して、作者の意図をどのように子どもに伝えるのか、伝わるのかについても、実践を通し調査地・研究する。子どもの感性を刺激する保育教材を実践的・応用的に活用できる技術を修得する。   |  |                     |                         |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>コマ数<br>1. 児童文化とは何か。(児童文化の定義・子どもにとっての児童文化の魅力)<br>2. 児童期の発達と児童文化 (子どもの成長、発達と文化の伝承、創造等)<br>3. 幼児教育と児童文化① (遊びの意義と児童文化とのかかわりと遊びで育つもの)<br>4. 幼児教育と児童文化② (保育の基本、領域と児童文化のかかわりと問題)<br>5. 児童文化財の研究① (玩具・遊具の種類とあり方)<br>6. 児童文化財の研究② (絵本、童話の種類と内容)<br>7. 児童文化財の研究③                    ..<br>8. 児童文化財の研究④ (紙芝居・人形劇・ペープサート等)<br>9. 児童文化財の研究⑤                    ..<br>10. 児童文化財の研究⑥ (テレビや視聴覚教材等の理解)<br>11. 手づくり絵本の製作①<br>12. 手づくり絵本の製作②<br>13. 手づくり絵本の製作③ (絵本読み聞かせ)<br>14. 児童文化施設と運動①<br>15. 児童文化施設と運動② |  |                     |                         |
| [使用テキスト]<br>・「子どもと関わる人のための心理学」～保育の心理学、こども家庭の心理学への扉～ (萌文書林)<br>[参考文献]<br>・「子ども理解の理論及び援助」～ドキュメンテーション (記録) を活用した保育～ (萌文書林)   |  |                     |                         |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考査点(75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。<br>・ 平常点(25%)<br>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。   |  |                     |                         |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                             |                    |  |
|--|-----------------------------|--------------------|--|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>専門演習 I  | 授業の種類<br>( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )   | 授業担当者              | 当該科目に関する実務<br>経験                       |
|  |                             | 板垣 寛               | 臨床心理士<br>児童相談所相談員<br>児童発達支援センター相<br>談員 |
|  |                             | 柳田 真理子             | 保育士                                    |
| 授業の回数<br><br>8回  | 時間数 (単位数)<br><br>16時間 (1単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>後期 | 必修・選択<br><br>必修                        |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <p>・保育、子育て支援について具体的な事例、課題を取り上げながら授業にて、調査・分析・問題点整理の方法を学ぶ。また、それらを有機的に関連付けることによって実習や就職に備える。保育・教育現場で「保育」「教育」「子育て支援」「多文化理解」の3つの視点を持てるよう、討論を交えつつ積極的に学ぶ。</p>   |                             |                    |  |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・現代社会とこどもの育ち・幼児期の発達と遊び</li> <li>2・子どもの心をしるることについて・子どもの心を理解するための臨床心理学的な視点と方法について</li> <li>3・子どもの心を知る方法としての観察、また、実践改善における記録の重要性について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心を理解するための基本的な考え「カウンセリングマインド」について</li> <li>・保育におけるカウンセリングマインドの重要性について</li> </ul> </li> <li>4・1～7回目までの、学習のまとめ</li> <li>5・保育者による、保育・教育の組み立てについて・保育者による子どもへの対応について</li> <li>6・保育者による保護者への対応及び保護者からの質問について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習中の子どもへの指導や援助について</li> </ul> </li> <li>7・実習生、初任者が抱える子どもへの対応の分からなさ、課題、対策について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生、初任者における園や保育者との関わりについて</li> </ul> </li> <li>8・5～6回目までのまとめ</li> </ol> |                             |                    |  |
| <p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育臨床相談」(北大路書房)</li> </ul> <p>「参考プリント」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて配布</li> </ul>   |                             |                    |  |
| <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考查点(75%)</li> <li>・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・平常点(25%)</li> <li>・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>   |                             |                    |  |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |  |                    |  |
|--|--|--------------------|--|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>特別ニーズ教育論  | 授業の種類<br><br>( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>板垣 寛  | 当該科目に関する実務<br>経験<br><br>臨床心理士<br><br>児童相談所相談員<br><br>児童発達支援センター相<br>談員 |
| 授業の回数<br><br>12 回  | 時間数 (単位数)<br><br>24 時間 (1 単位)  | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期 | 必修・選択<br><br>必修  |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br><br>・障がいの有無には関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、①インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索 ②我が国の特別支援教育の理念、制度及び展開 ③特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、について理解を深める。  |  |                    |  |
| [授業の・内容・授業方法]<br><br>1・特別支援教育の歴史～戦後から、現在に至るまでの変遷。現代社会における、教育的ニーズとインクルーシブ教育の理念～<br>2・インクルーシブ教育への転換～インクルーシブ教育の国際動向・サラマンカ声明にみる教育的ニーズと障害者権利条約・合理的配慮～<br>3・インクルーシブ教育への転換～我が国の特別支援教育の理念と制度、役割や機能について～<br>4・インクルーシブ教育への転換～通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育について学ぶ～<br>5・障がい児の教育課程と方法～特別支援教育の学習指導要領と教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画～<br>6・障がい児の教育課程と方法～特別支援学級や通級指導要領の教科指導（読み・書き）と作業学習、自立活動<br>7・障がい児の教育課程と方法～発達障がいや軽度の知的障がいを抱える児童を含む学級の授業づくりとその手法・授業のユニバーサルデザイン化・教材教具の心理的役割。<br>8・障がい児の教育課程と方法～ICT を用いたコミュニケーションの光と影の理解・障がいを抱える児童に対するソーシャルスキルトレーニング（SST）と問題行動への対応～<br>9・障がい児の教育課程と方法～特別支援学校の制度への理解（視覚障がい・聴覚障がい・病弱教育や重複障がい児童の教育課程編成～<br>10・障がい児者の発達・障がい・生活～障がいと発達の基礎概念・発達保障の考え方・障がい者の自立等、発達と教育の関係性)<br>11・障がい児者の発達・障がい・生活～障がいと発達の基礎概念の理解・いじめや非行、不登校と障がいの関連 QOL を高めるための教育的な支援～<br>12・障がい児者の発達・障がい・生活～読み書き障がい（ディスクレシア）、注意欠陥多動性障害（ADHD）・自閉 |  |                    |  |

症スペクトラム（ASD）等、事例を基に教育的支援を理解～

[使用テキスト]

- ・「新版 キーワードブック 特別支援教育」クリエイツかもがわ

[参考文献]

- ・「演習・保育と障害のある子ども」（株式会社みらい）
- ・「障がい児保育の基本と課題」（学文社）

[成績評価の方法と基準]

- ・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。
- ・考查点(75%)
- ・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・平常点(25%)
- ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                            |   |                 |                    |   |
|--|----------------------------|---|-----------------|--------------------|---|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>日本の伝統文化   |                            | 授業の種類<br>( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black;">演習</span> ・ 実習 ) |                 | 授業担当者<br><br>星 恵美子 | 当該科目に関する実務<br>経験<br><br>障がい児児童施設相談員・<br>養護学校教員・放課後デイ<br>サービス児童発達管理者 |
| 授業の回数<br><br>15回   | 時間数 (単位数)<br><br>30時間(1単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>後期  | 必修・選択<br><br>選択 |                    |   |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <p>・自分の生まれ育った国・地域の伝統や文化の特質を知り、保育者として、未来を生きる子どもたちに、伝承・口承していく役割担うことを意識し、学びを深めていく。また、日本の四季の変化や自然の美しさを再発見し子どもへの保育・幼児教育を通し五感を豊かに育むことができる情緒豊かな感性を育む。</p>  |                            |   |                 |                    |   |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・日本という国の地形と気候、四季の変化</li> <li>2・四季の移り変わり暮らし</li> <li>3・日本の暦と伝統行事(春)</li> <li>4・日本の暦と伝統行事(夏)</li> <li>5・日本の暦と伝統行事(秋)</li> <li>6・日本の暦と伝統行事(冬)</li> <li>7・日本の歴史①時代の区分</li> <li>8・日本の歴史②おおきな流れ</li> <li>9・日本の歴史③文化の歴史</li> <li>10・伝統芸能(能・歌舞伎・文楽など)</li> <li>11・伝統芸能(芸道)茶道と華道</li> <li>12・日本の衣生活(着物文化)</li> <li>13・日本人の宗教観</li> <li>14・日本の住まいと暮らし</li> <li>15・まとめ</li> </ol> |                            |   |                 |                    |   |
| <p>[使用テキスト]</p> <p>・各回テーマにそった資料を配布する</p>   |                            |   |                 |                    |   |
| <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査点(75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。</li> <li>・ 平常点(25%)</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>   |                            |   |                 |                    |   |

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |  |                   |  |
|--|--|-------------------|--|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>乳幼児の心理学   | 授業の種類<br><br>( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>板垣 寛 | 当該科目に関する実務経験<br><br>臨床心理士<br>児童相談所相談員<br>児童発達支援センター相談員 |
| 授業の回数<br>15回   | 時間数 (単位数)<br>30時間 (1単位)  | 幼稚園教諭専攻科<br>後期    | 必修・選択<br>必修  |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br>・乳幼児の心理的発達(認知・情動・社会性・自己など)について学び、乳幼児の発達の様相の実際を理解することを目的とする。乳幼児期における子どもの発達の特徴を理解し、発達の基本的な概念や養護、理論について知識を習得する。<br>乳幼児の心理的発達について学んだのち、各自が興味関心を持ったテーマを掲げ、研究成果を発表する。   |  |                   |  |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1. イントロダクション：生涯発達における乳幼児期の位置づけ<br>2. 有能な赤ちゃん：新生児の認知能力/新生児模倣/共鳴動作<br>3. 認知の発達：ピアジェの認知発達段階理論/感覚運動器/前操作期<br>4. 認知の発達：自他の心の理解/心の理論<br>5. アタッチメントの発達：アタッチメントの起源と発達<br>6. アタッチメントの発達：アタッチメントの個人差とその要因<br>7. 情動の発達：基本情動理論/情動のタイムテーブル/情動コンピテンス<br>8. 自己の発達：自己認知/自己理解/自己抑制<br>9. 社会性の発達：仲間意識/向社会性/思いやり<br>10. 遊びの発達：遊ぶの意義/ごっこ遊び/遊びと仲間意識<br>11. 映像から観る乳幼児の発達の姿と保育者の支援<br>12. 11 受けての事例を掲げてのグループ討議<br>13. テーマに沿った研究①<br>14. テーマに沿った研究②<br>15. 研究発表会 |  |                   |  |
| [使用テキスト]<br>・「子どもと関わる人のための心理学」～保育の心理学、こども家庭の心理学への扉～ (萌文書林)<br>[参考文献]<br>・「子ども理解の理論及び援助」～ドキュメンテーション (記録) を活用した保育～ (萌文書林)  |  |                   |  |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考查点(75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。   |  |                   |  |

・平常点(25%)

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |   |                   |  |
|---|---|-------------------|--|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>発達心理学 I  | 授業の種類<br><br>( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>板垣 寛 | 当該科目に関する実務経験<br><br>臨床心理士<br>児童相談所相談員<br>児童発達支援センター相談員 |
| 授業の回数<br>8 回  | 時間数 (単位数)<br>16 時間 (2 単位)   | 幼稚園教諭専攻科<br>前期    | 必修・選択<br>必修  |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br>・心の発達、感覚・知覚・認知、社会性、気質・性格、感情など様々な側面を見せながら、人の一生を通じて変化をしていく。発達は、個々に異なる様相を見せると同時に、乳児期・幼児期・学童期・青年期などのライフステージにおける普遍的特徴をもつ。本科目では、発達概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特徴について学び、また発達における環境の影響として学習や動機付けの理論について学ぶ。こうした学びによって、子どもの発達過程を踏まえて、主体的学習を支える援助のあり方について、理論的に説明できるようにする。 |   |                   |  |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・子どもの発達を理解することの意義<br>2・子ども観と保育観の変遷<br>3・胎児期・新生児期の発達の特徴<br>4・乳幼児期の発達の特徴<br>5・児童期の発達の特徴<br>6・青年期の発達の特徴<br>7・身体・運動の発達<br>8・認知の発達<br>9・言語の発達<br>10・感情の発達<br>11・気質・性格の発達<br>12・学習理論<br>13・動機付け<br>14・心身の発達を踏まえた保育者の指導<br>15・心身の発達を踏まえた集団作り              |   |                   |  |
| [使用テキスト]<br>・「シードブック」(建帛社)<br>[参考文献]<br>・「発達心理学キーワード」(有斐閣)・「発達心理学の基礎と臨床1・2・3」(ミネルヴァ書房)  |   |                   |  |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考査点(75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。<br>・ 平常点(25%)  |   |                   |  |

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |   |                    |   |
|--|---|--------------------|---|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>福祉と教育   | 授業の種類<br><br>( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>星 恵美子 | 当該科目における実務経験<br><br>障がい児児童施設相談員・養護学校教員・放課後ディサービス児童発達管理者 |
| 授業の回数<br><br>1 2 回   | 時間数 (単位数)<br><br>2 4 時間 (2 単位)  | 幼稚園教諭専攻科<br><br>後期 | 必修・選択<br><br>必修   |
| <p>[科目概要・到達目標]</p> <p>・これからの時代に求められるのは、正解が一つではない問題を考え、課題探求できる分析力と思考力を備えた人材を教育することである。福祉の現場においても。突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉を必要とする人に対して、その一人一人のニーズに応じて問題を解決していくことが望まれる。そのためには、これまでわが国で狩猟とされてきた、一方通行型、知識注入型の教育方法を改め、学生が主体となって学修に取り組める学習環境を構成していかなければならない。福祉の時代に向けて真に必要な諸能力は何かを分析し、21世紀に求められる福祉人のあり方について考察する。</p>  |   |                    |   |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・「福祉と教育」介護者と利用者、先生と生徒の視点で福祉現場と教育現場の問題や解決方を考察する</li> <li>2・教育方法の現状 (いじめ・教員の能力不足・教員の精神的ストレス・不登校等) と対応策について考察する</li> <li>3・教員によるいじめ、児童生徒同士のいじめ等の原因や解決策について、現状を理解し対応策を考察する</li> <li>4・教員の能力不足の様々な理由を掲げ、授業はじめ、学生対応時の問題点とその原因・解決策を考える</li> <li>5・教員の精神的ストレスの発生の理由を授業研究、保護者対応、教員間の人間関係等から多角的に考察する</li> <li>6・現代社会における「不登校」という教育問題について、その原因とそれが及ぼす影響について考察する</li> <li>7・グローバル社会と言える現代における「福祉と教育」の多種多様化について理解を深める</li> <li>8・一方通行ではない授業とは？教育現場で必要なコミュニケーション能力の向上のため現場の実態や必要な知識・技術を学ぶ</li> <li>9・「バイスティックの7つの原則」について、それぞれの項目と内容を理解する</li> <li>10・これからの社会福祉に求められるものを、専門職としての社会福祉士の視点で考察する</li> <li>11・これからの福祉教育に求められることを、様々な対象者のニーズに対応するために多職種の専門職が連携することの重要性を学ぶ</li> </ol> <p>※ (12・ターミナルケア・筋萎縮性側索硬化症等、症例を学び、ニーズの多様性へも理解を深める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13・福祉と教育の現場で、効果が期待される「音楽療法」について実践報告などから理解を深める</li> <li>14・これまでの授業から、自分が興味を持った内容についてまとめる)</li> <li>15・14にてまとめた内容を各自が受講者全体へ向けて発表する</li> </ol> <p>※1～11及び14の12回で構成し、補講として12・13・15を行う。</p> |   |                    |   |
| <p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育児童福祉要説」 (中央法規)</li> </ul> <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何処へ向かう教育改革 (主婦の友社)</li> <li>・動き始めた教育改革 (主婦の友社)</li> <li>・福祉または教育に関する新聞記事など</li> </ul>   |   |                    |   |

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っていること

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                                  |                    |                  |
|--|----------------------------------|--------------------|------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>保育の英会話  | 授業の種類<br>( 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>星 恵美子 | 当該科目に関する実務<br>経験 |
| 授業の回数<br><br>15 回  | 時間数 (単位数)<br><br>30 時間 (1 単位)    | 幼稚園教諭専攻科<br><br>後期 | 必修・選択<br><br>選択  |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br>・現代社会の保育教育現場において、子ども・保護者への指導支援は多様化している。園生活の中で、文化の異なる多国籍の子ども保護者への対応を視野にいれる必要がある。英語が必要とされる場面において、活用できるよう、必要な文法力、単語力及び基礎的な会話力を育む。<br>基本動詞の活用方を習得することで、基本的な英語表現を習得していく。<br>また、状況に応じたコミュニケーションをロールプレイの実践を通して   |                                  |                    |                  |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・保育の英会話への第一歩<br>2・自己紹介・園に関する単語マスター<br>3・基本的な英会話① (あいさつなど)<br>4・基本的な英会話② (相手を知る質問)<br>5・時間と数<br>6・保育に関する英会話 (持ち物を伝える)<br>7・基本的な英会話① (道順の説明・案内方法)<br>8・基本的な英会話② (こどもの紹介・遊びへの誘い)<br>9・園庭の遊具・遊びの動作表現方法<br>10・基本的な英会話③ (登園時・降園時)<br>11・感情を表す単語・熟語<br>12・子どもの状態を表す熟語<br>13・保育を記録する英語表現<br>14・食事に関する英語表現・排泄に関する英語表現・身体状態に関わる英語表現<br>15・英語でのコミュニケーション (事例の実践) |                                  |                    |                  |
| [使用テキスト]<br>・「保育の英会話」  |                                  |                    |                  |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考査点 (75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。<br>・ 平常点 (25%)<br>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。  |                                  |                    |                  |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                        |                           |             |        |                  |
|--|------------------------|---------------------------|-------------|--------|------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br>保育の食育活動   |                        | 授業の種類<br>( 講義 ・ 演習 ・ 実習 ) |             | 授業担当者  | 当該科目に関する実務<br>経験 |
|  |                        |                           |             | 柳田 真理子 | 保育士              |
| 授業の回数<br>15回   | 時間数 (単位数)<br>30時間(1単位) | 幼稚園教諭専攻科<br>後期            | 必修・選択<br>選択 |        |                  |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <p>・子どもが生涯適切な食生活を送るための「食を営む力」は、胎児期から思春期までの間に、子どもを取り巻く大人が与える食生活や行動、会話から培われることとなる。「食を食べること」は栄養成分や機能性成分を胎内に取り入れるだけでなく、身体的・文化的・社会的環境など、あらゆる面とかがわって刺激を受け、人として成長するための重要な役割がある。周囲の大人を真似て、どんなものを・どんな時に・どのように食べるのかを食事の度に五感を使って感じ取っていく。本授業では、子どもが長い人生を健康維持を意識し成長し続けられるよう、幼児期に食習慣の基盤を作るための支援を行う知識と技術を学んでいく。</p>  |                        |                           |             |        |                  |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・子どもの心身の健康と食生活～食べることは生きること～</li> <li>2・保育における食育の意義</li> <li>3・食育の内容と計画・評価</li> <li>4・食育のための環境</li> <li>5・家庭における食事①コショクの問題</li> <li>6・家庭における食事②食生活指導および食を通じた保護者支援</li> <li>7・保育の食育活動①バランスコマってなんだろう？</li> <li>8・保育の食育活動②赤・黄・緑の三食栄養群 (パネルシアター作成)</li> <li>9・保育の食育活動③1・2歳児の食育活動</li> <li>10・保育の食育活動④3歳児の食育活動</li> <li>11・保育の食育活動⑤4・5歳児の食育活動</li> <li>12・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領 領域「健康」における「食」に関わるの内容</li> <li>13・食育年間計画を学ぶ</li> <li>14・食育活動の指導案作成</li> <li>15・まとめ</li> </ol> |                        |                           |             |        |                  |
| <p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各回テーマにそった資料を配布する</li> </ul>  |                        |                           |             |        |                  |
| <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点 (25%)</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>   |                        |                           |             |        |                  |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                             |                     |                         |
|--|-----------------------------|---------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>保育・教職実践演習   | 授業の種類<br><br>( 講義・演習・実習 )   | 授業担当者<br><br>柳田 真理子 | 当該科目に関する実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br><br>12回   | 時間数 (単位数)<br><br>24時間 (2単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>後期  | 必修・選択<br><br>必修         |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育、幼児教育のこれまで習得した専門知識を振り返り保育者としての専門的基礎力の定着を図る</li> <li>・ 保育、幼児教育の習得した専門的知識技能の実践への応用と課題解決能力を高める</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育・教育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。実践上の課題や子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を見つけ、その改善に向けての方策や実行するための問題発見能力・課題解決能力・実践への積極的態度を養う。</li> </ul>   |                             |                     |                         |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、保育するとはどのようなことか。保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的スキルを考察する。</li> <li>2、保育者の責任とは、倫理観とは何かを理解する。「子どもの最善の利益」とは何かを理解する</li> <li>3、日本の現代社会の変化が招いた「子育て環境の問題点」を検討し、保育者・教育者に求められているものは何かを導き出す。</li> <li>4、日本の保育・幼児教育の制度について調べ、問題点や課題を提示しグループワークでそれらの方策を話し合う。</li> <li>5、保育・幼児教育の環境面での問題を、政治的・経済的・保護者立場・子どもの立場になり、多面的に考察する</li> <li>6、環境の改善①子どもの安全と安心のための環境構成を考える。乳児保育における保育者に要する細やかな配慮について話し合う。</li> <li>7、環境の改善②子どもの活動発展のための環境とはどのような環境か？子どもの自発的活動を発展させる環境構成について起案する。</li> <li>8、環境の構成③地域と園との互いに協力して、地域の子どもを育む意識を作るための工夫とは何かを考える。子育て支援を責務として理解を深める</li> <li>9、保育の実践①保育者としての基本的なふるまいとは (子どものモデルとしての保育者)</li> <li>10、保育の実践②子どもの内面理解と受容について (信頼関係の形成の重要性と信頼関係の効果)</li> <li>11、保育の実践③子どもの活動が発展するためには (物的・人的環境や誘導などを事例を挙げて具体化)</li> <li>12、保育者として向上し続けるために (振り返り・保育カンファレンス・相互評価・自己課題の理解等)</li> </ol> |                             |                     |                         |
| <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育・教職実践演習-保育理論と保育実践の手引き-(大学図書出版)</li> <li>・ 保育所施設実践演習これまでの学びと保育者への歩み (わかば社)</li> <li>・ 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント (ミネルヴァ書房)</li> </ul>   |                             |                     |                         |
| <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点 (25%)</li> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>  |                             |                     |                         |

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                             |                     |                         |
|--|-----------------------------|---------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>保育者・教師論   | 授業の種類<br><br>( 講義・演習・実習 )   | 授業担当者<br><br>柳田 真理子 | 当該科目における実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br><br>8回  | 時間数 (単位数)<br><br>16時間 (2単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期  | 必修・選択<br><br>必修         |
| <p>[科目概要・到達目標]</p> <p>・保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割・職務内容と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的なあり方、保育者の倫理観、乳幼児の基礎的知識・技能、保護者支援の方法など、具体的な保育方法の学習と共に、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見解を持つように学修を行う。</p>   |                             |                     |                         |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1・保育の意味 (こどもを育てる2つのコースと制度としての保育)<br/>         ①意図的保育・教育と無意識的保育・教育 ②保育者による計画的働きかけによる教育と保育者をモデルとした子どもの同一視などによる社会化。</p> <p>2・保育の現状理解 (社会の変化と保育ニーズ) 現在の保護者がどのような悩みを持ち、保育の場を求めているか、それへの社会の対応など現在の保育問題について、制度の問題・行政の問題・保育現場の問題を考察する。</p> <p>3・子ども観、保育観の重要性①保育者の子どもの見方、保育観が重要であることを学ぶ</p> <p>4・子ども観、保育観の重要性②西欧の思想を学び、現代の保育に影響を与えた思想の流れを理解し、保育観の源流、人間教育としての保育の本質とあり方を考察する。(ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、オーエン等)</p> <p>5・子ども観、保育観の重要性③日本の思想の流れを理解する。明治以降の幼稚園保育所の制度の変遷をまとめ、キーパーソンについて理解する。</p> <p>6・保育者と制度①保育者の制度的地位 我が国の保育制度をまとめ、児童福祉法に基づく保育所・学校教育法に基づく幼稚園の役割を理解する。</p> <p>7・保育者と制度②保育士資格取得の要件・幼稚園免許取得の要件を確認し、保育士資格、幼稚園教諭免許 (1種・2種・専修) の資格、免許の取得方法、学習内容、学習過程、習得すべき専門的能力に内容を理解する。</p> <p>8・幼稚園教諭に求められる能力と職務内容の概要 学校教育法・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある教育の基本、ねらい及び内容をまとめ、教師に必要な資質・能力・技術を理解する。</p> <p>9・保育士 (保育所保育士・施設保育士・児童福祉施設など) に求められる能力と職務概要 保育所保育指針に記載されている保育の目的、方針、保育者の役割をまとめ、その趣旨に即応するための保育者の資質・能力・技術を理解する。</p> <p>10・保育者の役割と専門性①保育者としての望ましい資質 保育の専門家としてどのような保育の場であっても共通に必要なとされる人間的素養 (感性・判断力・応用力・共感性など)、専門的知識、専門的態度、実践技術などを学ぶ。</p> <p>11・保育者に求められる専門性②保護者支援 保護者支援のために必要とされる態度・知識・技能をまとめる。</p> <p>12・期待される保育者①成長する保育者 保育における自己反省、カンファレンス、チームで行う保育、第三者評価など保育者自身の向上のための方法を理解する。</p> <p>13・期待される保育者②社会のニーズへの対応 保育ニーズの現状の理解と解決の方向 (ライフワーク・保育の質向上・専門機関との連携・保育制度の改正等) について考察する</p> <p>14・保育者の職務と倫理 全国保育士倫理綱領の内容理解と求められる倫理観を理解する</p> <p>15・まとめ「これからの保育者の役割と必要となる資質・能力」</p> |                             |                     |                         |

[使用テキスト]

「保育者論」(建帛社)

「保育所保育指針」(厚生労働省)

「幼稚園教育要領」(文部科学省)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っていること

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                             |                     |                         |
|--|-----------------------------|---------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>保育内容：環境   | 授業の種類<br><br>( 講義・演習・実習 )   | 授業担当者<br><br>柳田 真理子 | 当該科目に関する実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br><br>12回   | 時間数 (単位数)<br><br>24時間 (2単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期  | 必修科目                    |
| [授業の目的・ねらい及び、概要]<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもをとりまく環境について学び、環境と子どもの活動保育における環境及び環境設定について理解を深める。</li> <li>・ 保育の全体構造における環境に関して総合的に指導、援助が行えるような理論や知識を習得する。</li> <li>・ 演習形式で学ぶことで、「環境」で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を培う</li> </ul>  |                             |                     |                         |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の基本と領域「環境」について一環境を通して行う保育の基本を理解すると共に、領域についての理解を深める</li> <li>2. 領域「環境」をさらに深く理解する一様々な環境 (物的環境・人的環境・自然事象・雰囲氣的環境) について理解する一</li> <li>3. 幼児の成長発達の特徴を知る一0～5 歳児の成長の姿を理解する一</li> <li>4. 幼児の成長発達の特徴を知る一情報機器及び教材を活用した、環境設定の仕方を理解する一</li> <li>5. 保育環境とはどのようなものか理解する一保育の場、幼児の自己形成空間を考える</li> <li>6. 子どもの育ちを支える園環境 (1) 園舎 (保育室等、生活空間) 一適切な環境構成への多様な視点</li> <li>7. 子どもの育ちを支える園環境 (2) 園庭 (園庭及び地域資源の活用) 一環境適応能力の向上一</li> <li>8. 自然環境を考える (1) 人と植物の関わりを知る</li> <li>9. 自然環境を考える (2) 人と動物の関わりを考える</li> <li>10. 領域「環境」の内容及び対象を理解するための保育者の価値観や生活館について考える</li> <li>11. 模擬保育による検討 (1) 季節や自然を感じる環境構成及び指導計画</li> <li>12. 模擬保育による検討 (2) 安全安心な環境のための安全計画及び指導計画</li> </ol> |                             |                     |                         |
| [使用テキスト]<br>・コンパクト版 保育内容シリーズ3 環境 谷田貝公明 他著 (一藝社)<br>[参考文献]<br>・幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)<br>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)<br>・保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省・日本保育協会)  |                             |                     |                         |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点 (25%)</li> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> </ul>   |                             |                     |                         |

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

|  |           |                  |       |        |              |
|--|-----------|------------------|-------|--------|--------------|
| 授業のタイトル（科目名）   |           | 授業の種類            |       | 授業担当者  | 当該科目に関する実務経験 |
| 保育内容（健康）   |           | （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ） |       | 柳田 真理子 | 保育士          |
| 授業の回数  | 時間数（単位数）  | 幼稚園教諭専攻科         | 必修・選択 |        |              |
| 12回  | 24時間（2単位） | 前期               | 必修    |        |              |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」のねらいと内容について理解、習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら健康や安全、衛生について意識を持ち行動できるよう育てていく必要性を理解する。</li> <li>・ 子どもが生涯、健康に安全に生きる力の基盤を培うことができるような支援を行うことができる保育者を目指す。</li> </ul>   |           |                  |       |        |              |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・健康概念に関する理解～子どもにとって望ましい「健康」とは、どのような状態かを理解する</li> <li>2・領域「健康」にねらいと内容～幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されるねらいと内容を理解し、乳幼児の「健康な心身の発達」を支える保育者としての保育観を培う。</li> <li>3・心身の発達について（1）～スキヤモンの成長曲線を学び、特にリンパ型と神経型は幼児期の心身の発達に関連深いことを理解し、適切な援助を考察する</li> <li>4・心身の発達について（2）～乳幼児期の子どもの身体のが対句や身体機能の発達、心身の発育特性を踏まえ、発達段階を理解する。各発達段階に応じた関わり方や配慮、留意点を学ぶ</li> <li>5・基本的生活習慣の形成について（1）～基本的生活習慣とは何か、その形の必要性について理解する。集団生活での援助や指導についての配慮と留意点を考察する。</li> <li>6・基本的生活習慣の形成について（2）～食習慣や食文化を育む「食育」の重要性を幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から理解する。具体的事例を用い、乳幼児期における援助や指導の際の配慮と留意点を学ぶ。近年、家庭での食に関わる課題や問題点についても考察する。</li> <li>7・基本的生活習慣の形成について（3）～子どもにとって、適切な睡眠の習慣形成が重要であることを理解するとともに、現代における子ども達の睡眠事情のモデルを検討し、保育者の家庭との連携や保護者指導（支援）の必要性にも着眼し学ぶ。</li> <li>8・基本的生活習慣の形成について（4）～排泄・身の回りの清潔・衣服の着脱等の習慣化の意義を理解し、子どもの自立を促す援助・指導について考察する。基本的生活習慣は学童期にも継続することを理解し、家庭との連携が重要であることを理解する。</li> <li>9・遊びと健康について（1）～乳幼児期の子どもにとっての「遊び」の重要性を理解する。遊びによって育まれるものを身体的側面、精神的側面、社会的側面から考察する。遊びに関わる保育者の資質と役割についても理解を深める。</li> <li>10・遊びと健康について（2）～子どもを取り巻く生活環境の変化による遊びの現状を理解すると共に、子どもの健康に関する諸問題（学童期の体力、運動能力低下・健康阻害など）も把握し、保育において行うことができる方策を考察する。</li> <li>11・遊びと健康について（3）～子どもの健康に資する「運動遊び」とは何かを理解し、発達段階別に具体的な運動遊びを考察する。実践を想定した援助・指導の際の配慮や留意点を学ぶ。</li> <li>12・健康と安全について～乳幼児期の事故事例を検討することで事故を未然に防止する観点（危機管理）を学ぶと同時に、園における事故防止の取り組み（危機管理体制）事故発生時の対応についても理解を深める。</li> </ol> |           |                  |       |        |              |

[授業テキスト]

- ・「乳幼児の健康」大学図書出版

[参考文献]

- ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
- ・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省・日本保育協会）

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点 (75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点 (25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                           |                     |                         |
|--|---------------------------|---------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>保育内容 (言葉)   | 授業の種類<br><br>( 講義・演習・実習 ) | 授業担当者<br><br>柳田 真理子 | 当該科目に関する実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br>12回   | 時間数 (単位数)<br>24時間 (2単位)   | 幼稚園教諭専攻科<br>前期      | 必修・選択<br>必修             |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身に付ける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。</li> <li style="padding-left: 20px;">また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識、技術を習得する。</li> </ul>  |                           |                     |                         |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・保育内容「言葉」の学習内容と幼稚園教育要領における領域「言葉」から「言葉」の意義について理解する</li> <li>2・領域「言葉」のねらい・内容について学び、理解を深める</li> <li>3・子どもの言葉の発達～0歳～6歳児の子どもの言葉の発達のプロセスを理解する。</li> <li>4・子どもの言葉と環境～子どもの言葉に対する感覚を豊かにする実践について環境構成を含めて考察する</li> <li>5・子どもの言葉と環境～言葉に対する感覚を豊かにする実践について、環境構成について考察する。</li> <li>6・保育者に指導・支援(援助)～言葉に対する感覚を豊かにする実践について、環境構成について考察する。</li> <li>7・言葉での関わりに配慮を要する子どもへの援助・指導・評価～保育者の言葉が配慮を要する子どもに及ぼす作用について管理・支援・援助の視点で学習する。</li> <li>8・保育者の言葉～保育者にとって子どもに対する言葉かけの重要性について理解する。</li> <li>9・言葉と児童文化財(教材研究)～絵本・紙芝居・パネルシアター等、子どもの言葉を育む教材について理解する～</li> <li>10・言葉あそび～伝承遊び、言葉遊びを実際に調べ、実践していく。発表の機会を持ち、学びの共有をする。</li> <li>11・児童文化財の実演を通して、それぞれにふさわしい方法(演じ方、与え方)があることを理解する。</li> <li>12・「言葉」の指導計画の作成と、幼児期の「言葉」経験が就学後の「国語」を学ぶ基盤となることを理解する</li> </ol> |                           |                     |                         |
| <p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業テキスト：「保育者をめざす人の保育内容「言葉」 駒井美智子 著 (株式会社みらい)</li> </ul> <p>[参考テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教育要領 (平成29年3月告示 文部科学省)</li> <li>・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</li> <li>・ 保育所保育指針 (平成29年3月告示 厚生労働省・日本保育協会)</li> </ul>  |                           |                     |                         |
| <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点(25%)</li> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>  |                           |                     |                         |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |                           |                           |                 |                     |
|---|---------------------------|---------------------------|-----------------|---------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br>保育内容 (人間関係)  |                           | 授業の種類<br>( 講義 ・ 演習 ・ 実習 ) | 授業担当者<br>柳田 真理子 | 当該科目に関する実務経験<br>保育士 |
| 授業の回数<br>12 回   | 時間数 (単位数)<br>24 時間 (2 単位) | 幼稚園教諭専攻科<br>前期            | 必修・選択<br>必修     |                     |
| <p>[授業の目的・ねらい及び概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに、人間関係がどのように広がり深まっていくのかを理解する。保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人との関わりについて理解し、保育の全体構造における人間関係に関して、総合的に、指導・展開・援助が行えるような理論を習得する。その上で子どもの発達に即した人間関係を育む援助や活動を構想できるようになることを目指す。</li> </ul>  |                           |                           |                 |                     |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・乳幼児を取り巻く人間環境について理解する。(子どもが育つ環境である家庭・地域社会・保育教育機関それぞれでの人間環境や影響を「就学までに育みたい姿」を踏まえ、子どもが人と関わる力を育てる上で必要とされることを検証していく)</li> <li>2・乳児期の「人との関わり」に関する発達の課程を発達心理学の視点で検証し、理解を深める。(子どもの愛着形成や自己肯定・自己主張、自己発揮に対する理解と対応を学ぶ)</li> <li>3・幼児期の「人との関わり」に関する発達の課程を発達心理学の視点で考察する。3歳児以降の幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園・保育所保育指針のねらい及び内容を理解する。</li> <li>4・パーテンによる「遊びの発達段階」について理解する。遊びを通して育つ子どもの社会性の発達に着目し学ぶ。一人遊び・傍観遊び・平行遊び・連合遊び・協同遊びなど、子どもの遊びの基本的な形を学ぶ。</li> <li>5・パーテンによる「遊びの発達段階」の各段階における保育者の望ましい援助について考察する。遊びの変化は、子どもの人と関わる力の発達を象徴していることを理解する。</li> <li>6・0～2歳児の保育者と子どもの人間関係における留意点を理解する。保育者との信頼関係を基盤に仲間との人間関係が育むことができる保育者の指導・援助を考察する。</li> <li>7・3歳以上の保育者との子どもの人間関係における留意点を理解する。子どもの仲間菅駅を築く力を育てる上での保育者の援助のあり方について学ぶ。</li> <li>8・園生活において、子どもの自立心や自律心がどのように育つかについて理解する。互いに支え合い分かち合う意味ある集団に育つ家庭を理解する。</li> <li>9・子どもの活動において、自分の役割や立場、責任を理解し、主体的に行動することができるための援助を学ぶ。子どもが互いに認め合い、自己発揮できる環境について考察する。</li> <li>10・子どもが人間関係を育む中で必要なポイントを理解する。特に主体性・自発性・協同性・創造性等、全ての子どもに保障されるべき活動や育ちが保育の中で実現するために必要な指導や支援を学ぶ。</li> <li>11・現代社会の子育て環境を理解し、子育て支援にニーズを考察する。子どもの健全な成長・発達のために保育者と保護者の協力関係がいかに重要かを学ぶ。</li> <li>12・小学校との連携における「人間関係」の課題を理解する。幼児期と学童期の育ちの連続性の視点を養い、幼児期の学びが就学後の学びの基礎となることも理解する。</li> </ol> |                           |                           |                 |                     |
| <p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コンパス保育内容 人間関係」(建帛社)</li> </ul> <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</li> <li>・保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省・日本保育協会)</li> </ul>   |                           |                           |                 |                     |

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |  |                    |                 |              |
|---|--|--------------------|-----------------|--------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>保育内容 (表現)  | 授業の種類<br><br>( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 ) |                    | 授業担当者           | 当該科目に関する実務経験 |
|   |  |                    | 溝口 敏美           |              |
|   |  |                    | 風間 章子           |              |
|   |  |                    | 廣野 仁美           |              |
|   |  |                    | 柳田 真理子          | 保育士          |
| 授業の回数<br><br>12 回   | 時間数 (単位数)<br><br>24 時間 (2 単位)  | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期 | 必修・選択<br><br>必修 |              |
| <p>[授業の目的・ねらい及び、概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育者には、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、意志のある「表」と無意識の内的変化である「現」をそれぞれ大切に受け止めるための理解力を身につけることが必要である。</li> <li>講義と演習を通して、乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し適切に対応できる応答力を養う。</li> <li>保育内容「表現」のねらいと内容について理解すること・発達段階による「表現」の違いを理解すること・保育者が自己発見、自己認識を経て保育者自身が豊かな表現者になるよう自己表現力を高めること・乳幼児の「表現」を支える保育者の役割を理解すること・乳幼児の「表現」を援助するための方法をみにつけることを目標とし、学びを深める。</li> </ul>  |  |                    |                 |              |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保育内容「表現」の歴史の変遷と保育の中で捉えられる「表現」の特殊性を理解する。「表現」を司る五感と保育との関わりについて理解する</li> <li>領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する一現在の幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「表現」における子どもの発達と表現の理解</li> <li>表現する身体の獲得のため、バランスよい身体を育む、リズム活動などを考察する</li> <li>表現する身体と音楽に合わせた活動・遊びについての実践—わらべ歌はじめ遊びと歌を一体化した動作で育つリズム感や集団で遊ぶ中で育つ人間関係や社会性を理解する。</li> <li>子どもの歌の特徴と魅力を理解する。詩の世界に触れ、詩の言葉の特徴などを考察する。子どもの歌が小学校教育の音楽・国語につながる力を育むことを理解する。</li> <li>季節に着目し、行事やそれに関わるあらゆること、動植物や自然、生命についての様々な変化や事象に理解を深める</li> <li>造形に対する感性と表現について理解し、保育現場で子どもに豊かな経験を与えられるよう表現の可能性について実践を通して学ぶ。小学校教育の図画工作につながる力を育むことを理解する。</li> <li>造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察し、様々な素材での表現を知り、造形的思考力と表現力を育む指導を検討する。</li> <li>音、音楽に対する感性と表現について理解する。子どもが豊かな音や音楽を経験するために、音による表現の可能性を試行する。小学校教育における音楽につながる育ちとなることを理解する</li> <li>音、音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する。保育現場での音の表現、音楽的表現を育む指導方法を考察する。</li> </ol> |  |                    |                 |              |

11. 子どもの豊かな感性と表現を育むために、どのような環境を整えるべきなのか、環境と表現の関わりについて理解する。時間、空間、人間関係、健康状態などの考慮も理解する。
12. 表現を育む保育者の役割と保育教材について考察する。楽しみながら表現技術を身につけるために必要な指導や具体的な指導方法と留意点を考察する。

[使用テキスト・参考文献]

- ・「新しい保育講座 保育内容「表現」」ミネルヴァ書房
- 《参考文献》
- ・「事例で学ぶ 保育内容 表現」萌文書林
- ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
- ・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省・日本保育協会）
- ・「ことばと表現力を育む児童文化」（萌文書林）

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点 (75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点 (25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|   |  |                    |                         |
|---|--|--------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>保育内容総論   | 授業の種類<br><br>( 講義・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 ) | 授業担当者<br><br>柳田真理子 | 当該科目における実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br><br>12 回   | 時間数 (単位数)<br><br>24 時間 (2 単位)  | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期 | 必修・選択<br><br>必修         |
| [授業の目的・ねらい及び、概要]<br>・保育内容の5つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は、保育実践では、分断されて行われるものではない。子どもが、具体的な生活や遊びを経験する中で、それらが相互的に関わり合っていることを理解する。また、保育者として、保育・教育の実践の中で総合的に、5つの領域を捉える視点を持てるようにし、保育を行うことができる知識と技術を習得する。   |  |                    |                         |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1. 保育者養成施設における養成課程の「保育内容総論」とは<br>2. 子どもの発達と保育内容—幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における各領域のねらい、内容、指導上の留意点—<br>3. 子ども理解・保育理解と保育内容—子ども観と保育観の理解—<br>4. 子ども理解・保育理解と保育内容—子ども観・保育観と保育内容—<br>5. 保育所保育指針の理解、及び保育所における幼児の経験と発達に即した保育と小学校における教科とのつながり<br>6. 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び幼稚園における幼児の経験と発達に即した教育と小学校における教科とのつながりを考える<br>7. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び認定こども園法・制度の理解と保育内容<br>8. 情報科社会における保育の課題—情報機器や教材の望ましい活用法とは—<br>9. 教育課程・保育の全体計画と指導計画、及び指導案の作成<br>10. 指導案の作成を踏まえた模擬授業(乳児対象)と保育の評価<br>11. 指導案の作成を踏まえた模擬保育(幼児対象)と保育の評価(1)—保育者の子どもへの関わりを通して—<br>12. 指導案の作成を踏まえた模擬保育(幼児対象)と保育の評価(2)—保育実践における環境の再構成を中心として— |  |                    |                         |
| [使用テキスト]<br>「実践保育のための保育内容総論」(大学図書出版)<br>[参考文献]<br>「幼稚園教育要領」(フレーベル館)「幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」」(ぎょうせい)<br>「最新保育講座3 こども理解と援助」(ミネルヴァ書房)保育内容総論 あなたならどうしますか?(萌文書林)   |  |                    |                         |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考查点(75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。<br>・ 平常点(25%)<br>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。   |  |                    |                         |

|   |                               |                     |                         |
|---|-------------------------------|---------------------|-------------------------|
| 授業のタイトル（科目名）<br><br>幼児教育方法論   | 授業の種類<br><br>（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ） | 授業担当者<br><br>柳田 真理子 | 当該科目における実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br><br>12 回   | 時間数（単位数）<br><br>24 時間（2 単位）   | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期  | 必修・選択<br><br>必修         |
| <p>[科目概要・到達目標]</p> <p>・ 幼児期における、保育方法の基礎的な理論と実践について学習する。また、実際の保育の場で必要とされる「環境構成」及び「活動の状況や一人一人の幼児に応じた援助」について理解し習得するとともに、教材研究・活動の展開・保育形態・評価の在り方などを学び、指導案の作成方法を理解する。さらに、情報機器を使用した教材の作成や活用に関する基礎的知識、幼児の情報活用能力（情報モラル含む）の芽生えを培う指導方法などを考察</p>  |                               |                     |                         |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・保育方法の基本、保育方法の原理について○保育の基本的理念、子ども観や保育観についての理解を深める。</li> <li>2．環境を通しての教育とは○幼児期にふさわしい教育の基本としての「環境」について意義と環境構成について学ぶ</li> <li>3・遊びを通して教育とは○幼児期にふさわしい生活を捉える視点としての「遊び」について特性、遊びの中の学び、総合的な指導について学ぶ。</li> <li>4・幼児の主体性の育成について○幼児期の特徴としての主体性について考える。子どもの主体性と保育者の意図、計画性、役割について考える。</li> <li>5・学びを育む遊びの内容○遊びに含まれる「感じる・気付く・試す」という視点で遊びを捉えたときの学びの可能性</li> <li>6・「環境を通しての教育」を展開するために、幼児の興味・関心・自発的な活動を引き出す道具、材料、場や空間構成、雰囲気などの具体的な理解を深め、カウンセリングマインドを生かした援助についても理解を深め、実践力を習得する</li> <li>7・様々な保育形態を学ぶ○一斉保育、自由保育、異年齢保育、プロジェクト・アプローチ、ティーム保育等、様々な保育形態の意義、メリット・デメリット、保育者の留意など学ぶ。</li> <li>8・保育における指導計画の基本事項○幼児の心身の発達・保育のねらいや内容、活動の選定、生活の流れにそった保育者の援助や留意点などについての理解を深め、指導案計画の作成に活かす。</li> <li>9・保育における省察と記録、実践と評価について学ぶ○保育における省察と効果的な記録の在り方、保育の評価と計画の関わり</li> <li>10・今日の電子機器及び教材の急速な進展を考慮に入れ、乳幼児期の情報機器利用状況について学び、個に応じた教育・保育の観点からどのように取り入れることができるかについて、さらに情報モラルの芽生えをどのように育てていくか</li> <li>11・幼児理解や保護者との連携、幼稚園の運営などへの情報機器の効果的な活用の仕方について学ぶ</li> <li>12・幼児期の教育と小学校教育の接続・連携○幼稚園や保育所と小学校における連続性、保育者や小学校教師との連携について学ぶ。</li> <li>13・家庭との連携を活かした保育○家庭と園、保護者と保育者などの相互に役割を補完し合うトータルな保育環境づくりや援助</li> <li>14・地域との連携を活かした保育○地域の様々な資源や教育力を活用する保育の在り方について考える</li> <li>15・保育のボーダーレス化と多様な保育形態○統合保育、多文化保育についての意義、方法、配慮事項について幼児を取り巻く社会変化と関連付けて学ぶ。</li> </ol> |                               |                     |                         |
| <p>[使用テキスト]</p> <p>・「保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法」（小田豊 著／北大路出版）</p> <p>[参考文献]</p> <p>・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省・日本保育協会）</p>   |                               |                     |                         |

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|   |                            |                                  |                 |                    |                             |
|---|----------------------------|----------------------------------|-----------------|--------------------|-----------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>保育実践技術<br>(保育デザイン)   |                            | 授業の種類<br>( 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 ) |                 | 授業担当者<br><br>河村 和代 | 当該科目に関する実務<br>経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br><br>15回  | 時間数 (単位数)<br><br>30時間(1単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>後期               | 必修・選択<br><br>選択 |                    |                             |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br>・幼児教育・保育に関する基本原理・内容を理解する。基礎的内容を土台として、実践的な内容となる、遊びや活動における指導や支援を考察していく。子どもの興味や関心を高め、自ら考え行動することができる力を育むための教育・保育の方法を検討していくことで、保育者としての資質・能力を育む。<br>幼児教育・保育の現代にいたるまでの歴史的変遷を理解し、現代社会の幼児教育・保育現場に必要な子ども理解のために必要な視点を多面的に考察する。  |                            |                                  |                 |                    |                             |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1・本学習の全体概要を理解し、自分自身の被保育・教育体験を振り返り、保育・教育のイメージや自らの保育観・教育観を表現する。<br>2・現代社会の子どもをめぐる社会的な状況とその問題点、ならびに、保育者の位置づけを理解する。<br>3・「幼稚園教育要領」の歴史的変遷と各特徴を理解する。<br>4・幼児の教育方法と関連する歴史的人物の果たした役割を整理し、理解する (1)<br>①フレーベル②ペスタロッチ③モンテッソーリ<br>5・幼児の教育方法と関連する歴史的人物の果たした役割を整理し、理解する (2)<br>④倉橋 惣三 ③東 基吉 ④赤沢<br>6・保育の実践を創る「PDCA サイクル」について考える<br>7・保育者の「省察」を行う手立てについてを理解する<br>8・幼児教育方法を支える活動①「関係」<br>9・幼児教育方法を支える活動②「遊び」<br>10・幼児教育方法を支える活動③「生活」<br>11・子どもをめぐる現代的課題「食育」事例を通して学ぶ<br>12・子どもをめぐる現代的課題「障がい児保育」<br>13・子どもをめぐる現代的課題「家庭との連携」「子育て支援」<br>14・保育教育実践を考える (非認知能力を育むために)「遊び活動」<br>15・保育教育実践を考える (非認知能力を育むために)「絵本読み聞かせ」 |                            |                                  |                 |                    |                             |
| [使用テキスト]<br>・「保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法」北大路書房<br>・「幼稚園教育要領」(平成29年告示)文部科学省(フレーベル館)   |                            |                                  |                 |                    |                             |
| [成績評価の方法と基準]<br>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。<br>・ 考查点(75%)<br>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。<br>・ 平常点(25%)<br>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。  |                            |                                  |                 |                    |                             |

# 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

|  |                               |                     |                             |
|--|-------------------------------|---------------------|-----------------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br><br>幼稚園教育実習指導 I   | 授業の種類<br><br>( 講義・演習・実習 )     | 授業担当者<br><br>柳田 真理子 | 当該科目に関する<br>実務経験<br><br>保育士 |
| 授業の回数<br><br>12 回  | 時間数 (単位数)<br><br>24 時間 (1 単位) | 幼稚園教諭専攻科<br><br>前期  | 必修・選択<br><br>必修             |
| [授業の目的・ねらい及び概要]<br><ul style="list-style-type: none"> <li>• 教育実習は、授業で習得した知識や理論を、幼稚園で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教員の使命感を身に付け、教育職としての資質を向上することを目的とする。</li> </ul> 本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身に付ける。具体的には、管理運営の理解 (教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般)、幼児の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営等について講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。<br>学生は実習において、幼児の生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教員に指導・助言を受ける。その際、幼児及び児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。 |                               |                     |                             |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]<br>1、講義概要 教育実習の意味 実習に向けての自己課題<br>2、子ども理解と援助 ・ 支援技術の理解 教育環境と子どもの実態<br>3、実習に必要な心構え、マナー、資質の理解<br>4、指導案、記入に必要な事項<br>5、子どもの活動と教師の援助、支援<br>6、指導案一枚の中の関連<br>7、指導案作成 題材、活動内容等の記入<br>8、指導案作成 援助、支援等の工夫<br>9、模擬保育の実施 その1<br>10、模擬保育の実施 その2<br>11、模擬保育の実施 その3<br>12、子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1<br>13、子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2<br>14、目ざす保育と自己課題の再設定<br>15、まとめ   |                               |                     |                             |
| [使用テキスト]<br>「教育実習 (初等) の手引き」<br>「参考文献」<br>文部科学省「幼稚園教育要領」フレーベル館 ・ 花篤實 他著「造形表現 実技編」三晃書房  |                               |                     |                             |

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。

- ・ 考查点(75%)
- ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。
- ・ 平常点(25%)
- ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

# 授 業 概 要

(こども保育科)

|   |                         |                                  |             |        |                  |
|---|-------------------------|----------------------------------|-------------|--------|------------------|
| 授業のタイトル (科目名)<br>幼稚園教育実習指導Ⅱ   |                         | 授業の種類<br>( 講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> ) |             | 授業担当者  | 当該科目に関する実務<br>経験 |
|   |                         |                                  |             | 柳田 真理子 | 保育士              |
| 授業の回数<br>12回  | 時間数 (単位数)<br>24時間 (1単位) | 幼稚園教諭専攻科<br>後期                   | 必修・選択<br>必修 |        |                  |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題を持って実習に取り組めるように学ぶとともに、実習記録に関する指導、指導案の考え方や教材準備、実技など、実習を円滑に進めるための知識や技能を習得する。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで、保育・教育の理解を深める。</li> <li>子どもの保育・教育及び保護者支援について総合的に学ぶ。</li> <li>保育計画、実践、観察、記録等について実際に取り組み、理解を深める。</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育教諭としての意識を高め、技術を習得することができる。</li> <li>自らの実習における課題を明確にして取り組み、教育者として豊かな人間性を育む。</li> </ul> |                         |                                  |             |        |                  |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習Ⅱに向けて (課題を明確にする)</li> <li>2. 実習の概要</li> <li>3. 日誌・指導案について①</li> <li>4. 日誌・指導案について②</li> <li>5. 模擬実習①</li> <li>6. 模擬実習②</li> <li>7. 模擬実習③</li> <li>8. 模擬実習④</li> <li>9. 直前指導①実習の心得、マナー、留意事項の確認</li> <li>10. 直前指導②</li> <li>11. 直前指導③</li> <li>12. 巡回教員との面談</li> <li>13. 教育実習Ⅱ振り返り</li> <li>14. 教育実習Ⅱ反省会</li> <li>15. 教育実習総まとめ</li> </ol>   |                         |                                  |             |        |                  |
| <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短大テキスト各種</li> <li>・教育実習の手引き</li> </ul>   |                         |                                  |             |        |                  |
| <p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。</li> <li>・ 平常点 (25%)</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>   |                         |                                  |             |        |                  |